

2021/12/10-2

(オマケの商い講座 レクチャー法 2 after) 書庫版



そこで次回のレクチャーで何をやったかと申しますと

ナマステ別館の6人掛け客席テーブルをいっぱいを使って、

●まず縦方向左端に売値以下マージンと各原価構成の立て札を順番に下方向に向かってお

きました。

即ち売値、マージン、諸経費、原材料費、人件費。

●次に横方向には開店以来の年度の立て札を左から順番に右方向に向けておきました。

即ち 2018 年開店ですので、2019、2020、2021、そして未だ来ぬ 2022 年という具合に。

●その次には、売値の処に横一文字に赤いビニールテープを貼り、その下のマージンの処に今度は同じくスチール製の巻き尺を伸ばして横一文字に置きました。

●売値の処にはわかりやすいように当店のテイクアウト値段の現金 550 円を 2018 年、2019、2020、2021 の処に夫々置き、

●今度は一番下の人件費の処にデフォルメ手法を使って 2018 年は 1000 円札一枚、2019 年は 1000 円札二枚、20 年度は 1000 円札三枚で 21 年の今年のところには 1000 円札四枚を縦方向積み重ねずに置きました。2022 年の処にはお札は置きませんでした。

●それで次に原材料費の処には 2018 年から 2020 年までは 1000 円札を各一枚ずつ、最後に今年である 2021 年の処には 1000 円札を是またでデフォルメで三枚重ねずに置きました。

●ここからがいよいよ本番、見せ場でした。

まず左隅下の 2018 年の人件費のコーナーにスチール製の巻き尺の先端を置き、そこから対角線上の右上隅一つ手前の 2021 年の売値を結んだ線を作りました。

●2021 年でのお札が積み上がった高さは丁度 2021 年の売値の赤いテープと対角線上に伸びたスチール製巻き尺とクロスするように積んであったのです。

●諸経費は面倒くさいので省きました。それでも一見して毎年マージンが減り、最後はなくなっているのは誰にも分かったようです。

●更に今度は同一マージン額を取ることを意味して巻き尺を赤いテープと平行にしました。

●無論原材料費は勝手に下げるわけにも行かないので、人件費の処に平行に置き、スチール製の巻き尺の上に出っ張ったお札は 2019 年は一枚、2020 年は二枚、2021 年の処は三枚。過去と現在の分は既成事実なので変えられませんからそういう姿になります。

●しかし未だ来ぬ 2 未来である 2022 年の処には、1000 円札を一枚しか置きませんでした。皆の顔つきが一変しました。明らかに「ヤバイ」という顔つきでした。

●その顔つきを確認した上で、今度は 2022 年の処にお札を四枚追加で縦積みに置きました。その上で、今度は

●「2022 年にこうなりたければ、どうするか？」

と言って売値の処に横一文字に張ってあった赤いテープの左端だけで錘で抑え、右端の方の下で対角線上に戻したスチール製巻き尺と平行線になるように右肩伸ばしに移動させました。

●そして

「だから値上げをしなくちゃいけないんだ」

と大声を張り上げて言いました。

注)

写真はカジノ風景ではなくナマステ別館の教育現場風景です。

(続く)